

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホームよろこび 1ユニット		
所在地	名古屋市緑区桶狭間北三丁目902番地		
自己評価作成日	2020/11/4	評価結果市町村受理日	令和3年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナウイルス感染症が流行し、入居者の皆様を守るべき対策に追われる毎日となりました。ボランティア等の活動もなく外出もままならない現状の中、少しでも入居者様が安心、安全で楽しく、穏やかに生活して頂けるよう、日々努めています。一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し、以前のように入居者様と遠足や外食、外出、イベント等が出来る日を願うばかりです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2371400959-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度については、感染症問題があることで、地域の行事が中止になったり、関連事業所の行事への参加ができなくなる等、様々な影響が出ているが、職員間で検討を重ねながらレクリエーションを行う等、日常生活を通じて利用者の楽しみをつくる取り組みが行われている。職員研修についても、例年は、近隣の公共施設を借りて実施しており、職員の資質向上に向けた取り組みが行われている。介護計画についても、日常的に職員間で介護計画に合わせたチェック記録を残し、計画作成担当者が記録の内容を数値化する工夫を行いながら、定期的なモニタリングと介護計画の見直しにつなげている。また、例年は、関連事業所と連携した運営推進会議を実施しており、出席者に運営法人全体の取り組みを知ってもらう機会がつけられている他にも、勉強会を行う取り組みも行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年11月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関先、事務所内に掲示し、入社時には必ず読んでもらっている。カンファレンス時には共有し理念を踏まえた話し合いをしている。	ホーム名である「よろこび」から考えた理念を職員による支援の基本に考え、職員会議でも話し合う等、職員間で理念の振り返りを行う機会がつけられている。また、ユニット毎に目標を考える取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度はコロナ禍の為、地域の一員としての交流が出来ていない。	地域の方との交流については、関連事業所とも連携しながら行われており、ホームでも中学生の受け入れ等、地域貢献につながる取り組みが行われている。今年度は感染症問題があり、交流が困難になっているが、回覧板等を通じた情報交換が行われている。	今年度は、地域の方との様々な交流が中止になる等の影響が出ていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、運営推進会議は4月以降開催はしていないが、入居者様の状況報告や活動内容等、会議資料を送付し、意見を伺える体制を取っている。	今年度は書面による実施となっているが、会議を開催する際には、関連事業所と連携しながら実施しており、出席者に運営法人全体の取り組みを知ってもらう機会につなげている。また、会議を通じた勉強会の取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	出向いたり等、自粛や中止になっているが、質問事項など電話で問い合わせをしている。	市担当部署との情報交換等については、運営法人の事務局を通じて行われているが、ホームからも講習会や研修会等に参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターとも随時の情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束検討委員会を設置し、3ヶ月に一度の割合で開催している。身体拘束をやむなく行う場合は、会議を開催し、ご家族様同意の上行い、介護記録を毎日し記録をのこしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、関連事業所とも連携した身体拘束に関する検討や職員研修の取り組みが行われている。やむを得ない場合でも、職員間で検討を重ねる取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する事例を事務所内に掲示し、会議や日々の話し合いにて、意識づけし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を活用する入居者様はいるが、一部の職員のための周知となっているので、今一度、学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけ十分に説明し、理解に努める。改定等の際は予め、書面で説明し疑問等には適切に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置と共に面会時には、必ず声がけ要望意見があればすぐに対応し、運営に反映させている。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、行事を通じた家族との交流が行われている。家族からの要望等については、運営法人でユーザー評価が行われている。また、利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議・管理者会議で意見や提案を聞く機会を設けている。スタッフミーティング・申し送り等、日々の話し合いの中で反映している。	毎月の職員会議や日常的な情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等は、関連事業所との会議等で検討され、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	入居者様ごとの担当者、行事等の担当者を決め、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人手不足、コロナ禍の中、研修の機会が減っているが、施設内にてトレーニングをしていくことに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍で交流する機会が減っているが、サービスの質の向上には常に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談にて、本人・家族のニーズを見極め、不安なく安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入時はもちろんのこと、導入後も積極的に話しかけ、不安や要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス導入時、本人・家族が必要としている支援を見極め柔軟に対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その人の出来る事を見極め、無理なく一緒に行い、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の中、家族の支援が難しくなっているが、出来る支援をお願いし、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の中、家族以外の面会、外出等難しく支援が出来ていない。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、馴染みの関係継続につながる機会がつけられている。また、例年は、家族との外出も行われており、食事や買い物をはじめ、身内の方の葬儀等に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の関係を十分に把握し、みんなと一緒に出来ない事を見極め提供し、支え合う関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人からの連絡、相談とあり、その都度対応し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時他、定期的に家族に生活の意向を確認している。意思表示が難しい場合は本人の立場に立って考えるよう努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげ、職員間での共有が行われている。また、カンファレンスやアセスメント等を通じて利用者の意向等を把握、検討し、日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、担当だったケアマネジャーやかかりつけ医などから聞き取り、情報収集してアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	3ヶ月に1回の定期モニタリングの他、状態変化時には、その都度、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、職員や病院等関係者への聞き取りや担当者会議で意見を出し合っている。	介護計画は6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた見直しにつなげている。また、日常的に介護計画に合わせた記録を残しながら、実施内容を数値化して3か月のモニタリングにつなげる工夫も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアプランの実施状況を記録、申し送りやミーティングで情報共有し、計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別に行う筋力訓練や買い物外出など、個々の状態ニーズに合わせた取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の中、地域の行事もなく、暮らしを楽しむことの支援が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は決まっている為、定期的な受診訪問診療を受けることができ、状態に応じて臨時受診も出来ている。	運営母体が医療機関であることで、医療面での随時の支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応につなげている。母体の医療機関以外の医療機関とも連携しており、受診支援等が行われている。また、看護による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	気になった情報など、相談を受けた場合、状態の確認等指示を受け、必要時には受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の活用や病院関係者とのコミュニケーションを図るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と話し合い、方向性を決め支援に取り組んでいる。	利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しているが、利用者の看取り支援については、医療機関へ移行して対応している方が多い現状でもある。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いが重ねられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ禍にて、定期的な訓練はできていないが、自己学習をすすめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍で、地域との協力体制を築くことが難しくなっているが、独自に避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認を行いながら、職員間の連携につなげている。関連事業所と連携した取り組みや地域の方との協力関係も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	避難訓練については、現状、ホーム単独で行われているが、関連事業所との連携についても、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に人格を尊重し、言葉かけに注意して行っている。入浴・トイレの支援時にプライバシー確保に留意している。	ホームの基本理念にも利用者を尊重した対応を行うことが掲げられており、職員が日常の支援を通じて利用者への対応や言葉遣い等につなげるような働きかけが行われている。また、運営法人で職員の接遇につながる振り返りも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、入居者様を知り信頼関係を築き、話しやすい環境の中で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	だいたいの一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にして希望に添って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度、訪問理美容を利用され、本人の希望の髪型にして頂いている。又、本人の好みを尊重しながら清潔に心がけ、季節に適した衣類を着て頂く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの出来ることを把握し、力量に合わせたお手伝いをスタッフと一緒に、意欲向上の支援を行っている。	食事については、外部業者も活用しながら提供しており、ホームのキッチンで盛り付け等が行われている。利用者も片付け等のできることに参加している。また、利用者も身体状態に合わせたソフト食の提供も行われている。	ホームで出前を活用する等、食事を通じたレクリエーションが行われているが、ホームでの調理の機会が以前よりも減っていることもあるため、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の摂取量の記録の記入、減塩・刻み・ソフト食、ミキサー食と状態に合わせて提供、また、むせ込みのある方はトロミで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ひとりに合わせた、口腔ケアを行っている。週に一度訪問歯科を行っており、相談・指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、トイレ内で排泄できるよう支援している。	利用者の身体状態等にも合わせながら排泄に関する記録を残しており、協力医との連携を深めた支援にもつなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら職員間で検討を重ね、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表にて、排便の確認を行い、一人ひとりに適切な水分補給・適切な運動の働きかけ等の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	曜日、時間と決まっているが、一人ひとりの体調や希望を取り入れ支援している。	入浴については、週2回の午後の時間を基本に行われており、入浴を拒む方についても職員間で連携した支援を行い、定期的な入浴につなげている。また、浴槽については、大きめの浴槽であり、ゆったりと入ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日々の状況に応じて休息できるよう支援している。又、日中、活動的に過ごし、夜間良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報にて把握に努め一人ひとりの服薬前後のWチェックを行い誤薬、飲み忘れの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話、表情より一人ひとりのお好きな事、出来る事を知り、レクリエーション、お手伝いの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で、外出等は控えている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、ホーム近隣の公園を散歩する等、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。例年は、季節等に合わせた外出行事の取り組みや関連事業所の行事に参加する等の機会がつけられている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理はご家族様、本人同意の上、施設管理をしている。一人ひとり小遣い帳にて収支を明確にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時、電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月、季節感のある壁画作りを入居者様と一緒にやっている。	ホーム内は落ち着いた色彩の壁紙を使う等、利用者が日中の生活を落ち着いて過ごすことができるような生活環境がつけられている。リビングの壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席、テレビ前のソファ席と、思い思いに利用できるよう支援している。入居者様同士、雑談を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や馴染み深い物を居室内に置き、心地よく過ごせるようにしている。	居室には、利用者や家族の好みや意向等に合わせた持ち込みが行われており、使い慣れた家具類や趣味の物等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、身内の方の写真や仏壇を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの居室前にはネームプレートや季節の塗り絵を飾り、トイレには「使用中」「あき」のプレートがあり、自立した生活が送れるよう支援している。		